

特集 子ども達の未来 3者3様トーク

校長先生、PTA会長、
町会副会長が語る！“まちで
育てる子ども達の未来”



東山小学校校長 永井 貴之

子どもたちを見守る立場は違っても、願うのは同じ「子どもたちの幸せな未来」。学校、家庭、地域、それぞれの視点から見える「これから」について、校長先生、PTA会長、町会長の三人に語ってもらいました。

Q1 今の子どもたちを見て感じていること

(校) 本校の児童は、何事にもポジティブで楽しみながら頑張ろうとする意欲を感じています。また、優しく思いやりのある児童が多く、とても微笑ましく感じています。一方、幼い頃からデジタルデバイスに触れてきた影響からか、感覚的な言動が目立つたりに耐性に欠けたりする側面も持ち合わせているように思っています。

(P) 今の子どもたちは昔と比べて大人びていますね。情報が豊富でデジタル世界にも慣れ親しみ多様な価値観を受け入れる力がありますが、物事を深く考える時間が少なくなってきたり、気がします。

(町) 自主的に毎朝挨拶から始まる「子ども見守り活動」をやっています。子どもたちは明るく元気で、勉強以外でもいろいろチャレンジしています。いやりたい夢を考えている子が多く可能性が広がる。(願い) 周りの友達や大人との関わりを豊かに。心のこもった挨拶をしよう。

Q2 子どもたちの未来がより良くなるために、どんな力を身につけてほしいですか

(校) 今後10年間の教育課程の方向性の審議が進み方向性が示されてきましたが、その柱のひとつが「多様性の包摂」です。学習面や行動面で著しい困難を有している子や不登校及びその傾向の子、特異な才能のある子、日本語を家であり話さない子など、多様な個性や特性を有する子どもが増えている現状で、多様性を包摂し一人一人の意欲を高め可能性を開花させる教育の実現が求められています。そうした社会の実現に向けて一人一人の個性や特性を受け入れ合い、認め合い、良さや可能性を生かし合えるようになって欲しいと願っています。

(P) 自分が考え感じ、表現する力と共に、打たれ強さを身に付けて欲しいです。今の子どもたちは、失敗や挫折を経験することが少ない。失敗しても大丈夫と思える強い心を育てて欲しいです。

(町) 個性生き生き、自分の持ち味を生かせるといいですね。社会性、周囲とのコミュニケーションはすーっと身に付けて欲しいですね。(大人も) 例え一人でも

いいから、話せる仲間を持ってほしい。多くのことは乗り越えられる。

Q3 大人は、どのように子どもたちに関わっていくべきだと思いますか

(校) SNSの炎上に代表されるように世の中の風潮が不寛容に傾いていて「批判する」「攻撃する」ことが日常的になっているように感じています。そうした風潮を敏感に感じる子ども達は、必要以上に周りに合わせて目立たないようにしています。いわゆる「同調圧力」の傾向です。

一人一人の個性や特性が異なるのに無理をしたり我慢をしたりしていると考えると心が痛みます。そうした子どもたちの力を抜くためにも、「寛容であること」「かけがえない存在として慈しむこと」が大切にされて欲しいと思います。

(P) 答えを教えるのではなく、子どもたちと一緒に考える姿勢が重要で時には厳しく叱ることも必要です。優しさと厳しさのバランスが大切だと思います。

(町) 温かい心で「子どもたちの夢の後押し」が大切だと思います。大人も共に学び、共に成長する覚悟で楽しく関わる。何より子育てを親が楽しんでほしい。

Q4 未来の子どもたちに向けたメッセージを！

(校) 沢山の人の力を借りながら、自分らしく伸び伸びと成長して下さい。(P) 君たちには無限の可能性ががあります。学校の勉強や課外活動を通して、色々な興味や才能を見つけることができます。自分のことだけでなく周りの仲間、地域、そして日本全体のことを考えられる人になって下さい。(町) 「思うは叶う！」いつか自分の夢を持ち、諦めないで夢の実現を願い思い続けると、きっと叶うよ！自分を信じて！みんなでエールを送ります。

校長先生 これからの教育で特に力を入れたいことは？

・読書活動…今年度改善を計り成果が出てきました。
・情報活用能力の向上…質の高い探究的な学びのために多様な利用方法を共有したい。
・地域と連携した教育活動…キャリア教育や学習ボランティアにより充実させてきているので、より多くの協力を得ていきたい。

東山小学校運営協議会会長
東山町副会長
木村 以久子



町会副会長 地域の大人や町会としてこれから子どもたちにどんな機会を作りたい？

地域や町会は、子どもを大切にし寄り添った活動を心掛けています。かなり多くの行事を取り組んでいますが、その活動の充実と継続が大切。保護者や大人の方の協力があるとありがたいです。今年の活動の場や機会：七夕飾り作り、歴史や防災のゲストティーチャー、昔遊び、町会の祭、運動会、300人餅つき大会、子ども豆まき、新入生を祝う会、キャリア教育支援、見守り活動や声掛けなど

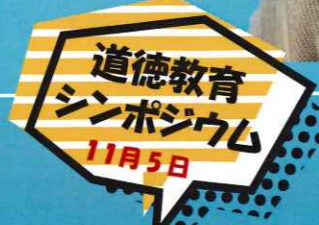
PTA会長 保護者としてどのように子どもたちの未来を支えたい？

私たち保護者は、子どもの拠り所でありたいと思います。どんな時でも帰って来られる場所として存在することが子どもたちの挑戦する勇気を支えると信じています。子どもたちが暮らしやすいより良い社会を作っていくことも大人の責任だと思っています。

三者三様それぞれの立場から貴重なお話を聞くことができました。子どもたちの成長を支えるのは、一人ひとりの思いや行動の積み重ねです。学校、家庭、地域がつながり合うことでより豊かな未来が生まれていくことでしょう。



東山小 PTA 会長 前田 貴



講師 吉田友信氏
(東京都江戸川区立南小岩小学校長)
(東京都小学校道徳教育研究会長)

一人一人のウェルビーイングの向上を目指して

講話 「生命の大切さの自覚やいじめの未然防止」
家庭や地域社会が連携した道徳教育

11月5日東山小学校を会場に講話が行われました。講師の吉田先生は、「自他の命を大切に、よりよく生きようとする心を育てることこそが道徳教育の原点です」と語りかけ、思いやりの心や感謝の気持ちを日々の生活の中で育てて大切さを伝えました。また、相手を思いやる優しさや、自分を信じて前向きに生きようとする姿勢が、「ウェルビーイング(より良い状態、幸福感)」の基盤となることを分かりやすく示されました。講話の後には、学校代表の藤村先生、地域代表の木村氏、PTA会長の前田氏を交えたパネルディスカッションが行われました。それぞれの立場から、子どもたちの命や心を守るために出来ることを語り合い、学校、家庭、地域が手を取り合って子どもの成長を支える重要性を再確認しました。心の教育のあり方を考える、あたたかい時間となりました。



災害図上訓練 地域探検

9月10日、11日



「災害図上訓練」について中央警察署の方に来ていただき災害時の行動について学びました。ボランティアスタッフ、保護者各町会（地域）の協力のもと実施されました。一日目は、自分の住む地域の地図を見ながら、災害時に危険と思われる場所に印をつけて確認しました。話し合いの中でわからないことがあると地域の方や警察の方に教えてもらいました。二日目は「地域探検」で、実際に印をつけた場所へみんなで出かけ、写真を撮ったり、どのように危険なのか確認しました。地域の方や警察の方に教えてもらいながら、子どもたちは防災について学びました。地域のみなさんのつながりの中で安心して暮らせる街づくりを考える貴重な体験となりました。



函館中央警察署の方に災害対応について教えてもらいました！

Q 実際に災害が起きた時、警察はどのような役割を果たしますか？

→自治体や消防、道路管理者、交通関係機関などと連携して被害の状況等を確認し、被災者の救出救助、交通規制、危険な場所からの避難誘導などを行います。

Q 小学生のうちから身に付けておいてほしい防災意識は何ですか？

→災害はいつ来るかわかりません。他人事とは思わず、自分や家族の命を守るため避難場所や避難経路を日頃から確認し早めの避難を心がけ、非常持ち出し品を定期的に確認するなどを意識してほしいです。

Q 今日の訓練で子どもたちにどんなことを学んでほしいですか？

→自分たちの住んでいる地域にはどんな危険が潜んでいるのか？避難する時はどこに避難すればいいのか？といったことを覚えておいてほしいです。

Q 地域の防災において、住民が出来ること、協力して欲しい事は何ですか？

→年少者やご年配の方は避難に時間がかかったり、手助けが必要となる場合もあります。もし、近所にそのような手助けが必要な方が住んでいたら避難に協力してあげてほしいと思います。

Q 災害時に子どもを守るため保護者に心がけて欲しい事がありますか？

→子どもたちの防災意識を向上させるためには、保護者の方の意識も重要です。家族がバラバラな時に、もし大きな災害が発生したら？といった最悪を想定して、私たちの家族はどこに集合（避難）するのか？といったことを話あってほしいと思います。

Q 今後の防災活動に向けて一言

→防災対策は一人一人の意識が大切です。今日の訓練をひとつの機会として、自分の身を守るため、今後の防災活動に役立てて欲しいと思います。